

公益社団法人 信和会 看護奨学生だより

2023年5月号

公益社団法人信和会 理事長 小林 充



元気ですか。昨年、今年と、NHKの「18祭」という番組に、ドはまりしました。ロシアによるウクライナ侵略戦争は終わりそうにないし、アフリカじゃ新しい戦争まで始まりました。地球温暖化も待ったなしです。でも、どんなにコロナで制約されても、何かを見つけるためや確かめるために、力いっぱい歌う若者たちに託せる未来が必ずあると感じさせてくれました。学びも遊びも精一杯楽しみながら挑戦してください。応援してます、そして楽しみに待ってます。

公益社団法人信和会 看護部長 鴨川 聡子



4月から看護師になる第一歩を歩まれることになった皆さん、ご入学おめでとうございます。そして、悩みながらも学びの多い日々を送っている看護学生の皆さん、これからさらに大きな学びと臨地実習での出会いを心待ちにしていることと思います。さて、5月8日より新型コロナウィルスは、インフルエンザと同等の扱いに変わりました。しかし、感染者がゼロになるわけではありませんし、重症化する方が居なくなるわけでもありません。医療の現場では、厳しい状況が続くことが予測されています。看護学生の皆さんも自分と家族、友人、そして臨地実習で出会う患者さんや利用者さんを守ることを念頭に日常生活を送っていただきたいと思います。

京都民医連あすかい病院 事務次長 武谷 夏実



看護学校に入学されたみなさん、おめでとうございます。新しい一年がスタートし、緊張の日々を過ごされているかと思います。心や体が喜ぶ美味しいものを食べたり、リラックスする時間を取るようになってください。特に野菜や果物がもつ「香り」には疲れた体や心をリラックスしてくれる“アロマ”のようなはたらきがあるとされています(〇)/

学生生活を有意義に過ごし、たくさんの出会いや経験していただきたいと思います。看護師を目指すみなさんを心より応援し、一緒に働くことを楽しみにしています。

京都民医連あすかい病院 副看護部長 山際 正樹



こんにちは。看護学生の担当をさせてもらい3年が経過しました。そのため、現在の奨学生の皆さんとは、奨学金申請時の面接からのお付き合いとなりますね。時がたつのは早いものです……。さて、卒業年度の皆さんは、採用試験も終了しましたので、あとは実習を乗り越えることに集中して頑張ってください。2年生(4年課程では2・3年生)は授業・実習と忙しくも充実した日々が始まります。次の学年で少しでも余裕が持てるように、今できることをしっかりやっていきましょう。1年生の皆さんは、少しずつ学校生活にも慣れてきたかもしれませんが、まだまだストレスフルですね。自己のリラックス方法を見つけて、焦らずに学習していきましょう。7月の奨学生のつどいでお会いできることを楽しみにしています。

あすかい病院ポジティブコンテスト

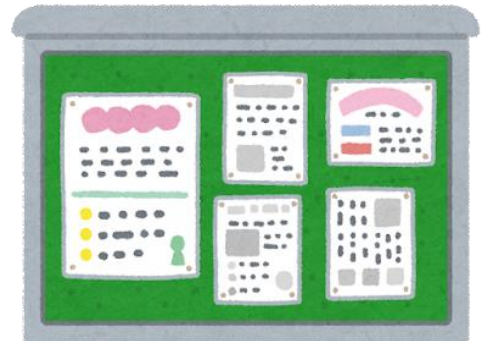
あすかい病院では 2022 年 3 月の年度末に Safety-2・ポジティブコンテストを開催しました。

コンテストでは、各職場から①仕事・環境改善の取り組み、②業務の効率化、③コスト・労力削減、④サービス向上、⑤学習・教育制度の改善、⑥円滑なコミュニケーションの充実、⑦エラーやインシデントへの先行的対策事例の 7 項目についてエントリーを募り、7 職場から発表がありました。その中から看護師のいる職場からいくつか抜粋してご紹介します。



透析センターからは「**ナースコールをあなたの手に**」と題しての発表でした。透析患者は一生透析治療を継続しなければならず、透析中に血圧が下がったりして具合が悪くなることもあります。透析の機械には血圧測定のスィッチとナースコールのスィッチが付いています。しかし、気分が悪くなってスィッチを押してもナースコールではなく血圧のスィッチを間違えて押していた…といったことなどがありました。そこで血圧測定のスィッチを患者さんのもとには出さない工夫や、ナースコールを一目で分かるようにテープでマーキングして定位置に配置したりすることで、患者さんも迷うことなく直ぐに押せるように改善されました。

健診センターからは、環境改善の取り組みが発表されました。出発点は、「**当たり前のように貼られている掲示物は本当に必要なのか？**」という視点からでした。受診者さんが待ち時間に目にする掲示物をもっと効果的にできないか。健診センターからのメッセージを伝えるチャンスと捉え、健康だよりや啓発ポスターを作り、健康づくりのきっかけにしてもらおうと掲示物の改善に取り組みされました。日を決めて掲示物の内容を見直したり、季節感を感じる掲示等、受診される方が、正しい情報を得られ、リラックスでき、緊張を和らげられるよう様々な工夫がされていました。



往診センターからは、なんでも言い合える職場作りと題して、チームメンバー間の**良好なコミュニケーションを促進**するための取り組みが紹介されました。1 分間スピーチやサンクスカード、また LINE WORKS や MCS（クローズド SNS）を活用していました。困ったことがあればみんなに相談して、みんなで助け合える関係性を構築し、また成長できる職場作りとして様々なグループ活動に取り組み、部会で報告し共有するなど、「通じ合え、助け合い、成長できる職場」作りの実践が報告されました。

自分達が取り組んできたことを見つめなおし、また、他職場の取り組みも知ることができる機会になりました。ポジティブな取り組みを知ること、自分達の職場、そして病院全体への信頼にもつながり明るい気持ちになれた職員も多かったようです。

——医療安全管理室たより（4 月号外）より

京都民医連第15回学術運動交流集会

第15回 京都民医連 学術運動 交流集会



3月21日に京都民医連第15回学術運動交流集会が開催されました。学術運動交流集会は2年間のこれまでの京都民医連での医療・介護の質の向上の取り組みを発表する場です。今回の学術運動交流集会のメインテーマは「コロナ禍でつむいだ人権・いのちの歩み」～70年の歴史を迎えて新たな未来と平和を語ろう～でした。

分科会企画では各部が主体となって企画運営を行い、各部の専門知識や実践経験、または問題意識により幅広く共有し、京都民医連の事業・運動の広がりや質的向上の機会になりました。

あすかい病院看護部からは4つの演題を発表しました。

透析センターの藤原さんは「透析患者への継続的栄養指導お取り組みについて」、急性期一般病棟の諏訪辺さんは「継続医療の取り組み～独居で自分らしく過ごすには～」、健診センターの福知さんは「あすかい健診センターにおける健診後追跡100%、二次健診受診率53%を目標とした取り組み」、緩和ケア病棟の山本さんは「実践報告・病院主催の食糧支援の取り組み」について発表しました。

2年に1回の学術運動交流集会は、京都民医連の多彩な事業活動・運動の集約点でもあります。全体の取り組みを共有し、事業の質向上、命と暮らしを守る運動の前進において交流し学び合いました。

あすかい病院 総務課の紹介



総務課は、職員の入職退職の手続き、給与計算、社会保険の手続き、経理、寮を含む施設の管理、院内保育所の運営など裏方として病院や職員をサポートする業務を中心に担当しています。

イメージとしては、職員の皆さんが就職したとき、引っ越ししたとき、結婚したとき、子どもができたとき、病気で休んだときなど、自分の生活に変化があったときに様々な手続きをしに来られる所です。

社会人になると、仕事以外にもいろいろな手続きや書類の提出があります。面戸うだと思いがちですが、その時は総務課もお手伝いしますのでまた相談して下さい。

あすかい病院 キラッと看護の紹介

急性期一般病棟のキラッと看護(ケア)をご紹介します。
難病で入院されていた患者さんが、徐々に病状が進行し呼吸苦が増強されていました。

人工呼吸器は装着しないと意思表示をされていたため対症療法を行っていましたが、呼吸苦に対する頻回な不安の表出がありました。



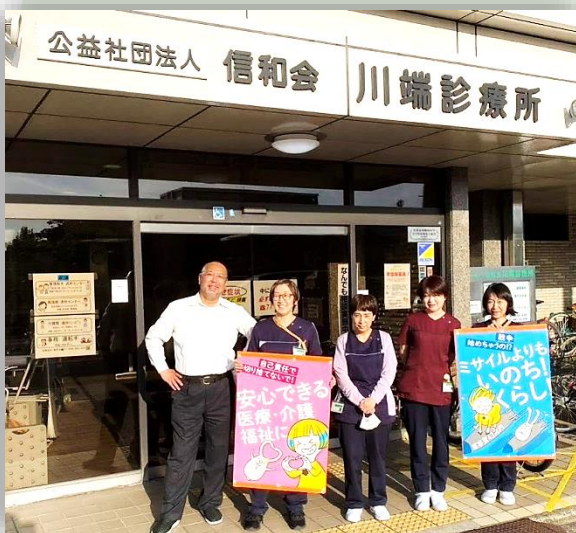
そこで、看護師、医師、リハビリスタッフでカンファレンスを行い、どのようにすれば呼吸苦や不安が軽減するのか考えケアしました。

緩和ケア病棟の医師にも相談し、呼吸苦が軽減し入眠を図ることができる内服薬について相談しました。また、少しでも不安が軽減できるように、普段在宅で使っていた加湿器を持ってきてもらい病院でも使用したり、呼吸苦が強い時はそばに寄り添い不安な思いを傾聴しタッチングを行いました。

それらの対応により、入院時は呼吸苦があるため混乱したご様子だったのが、退院する頃には呼吸苦が軽減されて笑顔もみられるようになっていました。

症状が進行していく疾患のため、どのように関われば安楽に入院生活を送ってもらえるのか迷う事例でしたが、多職種で話し合い関わっていくことで少しでも良い看護に繋げることが出来ました。

川端診療所外来の紹介



川端診療所は川端通り沿いにあり春には桜がとってもきれいな所にあります。

外来部門は外来診療・在宅診療・健診・ワクチンなど慢性疾患の患者さんの管理だけでなく、コロナ禍ではワクチン接種を断らず、多い時では1日40人以上、また2022年1月に風邪外来を開設し地域の要求に応えてきました。

看護師と事務は診療時に「衣類の汚れが目立ってきた」「内服の自己管理が難しくなってきた」など気になる患者さんの情報を共有するようにしています。診療だけで実際読み取れない、住環境やご家族・支援者の様子を自宅にうかがい確認する「気になる患者さん訪問」にも積極的に取り組んでいます。

自宅にうかがうと診察時とは違った表情が見られ、思ったよりも困りごとが多かった事例や、逆に職員は心配していたがご家族の支援がしっかり行えていて安心した事例などがありました。患者さんにより生活環境が違ふことがよくわかります。南地域包括支援センターや居宅介護支援事業所と通所リハビリテーションなど介護事業所も併設され連携がとりやすく、地域に根ざした診療所です。